

1. はじめに

学園は今後も建学の精神と伝統を継承して「十年先、二十年先に役立つ人造り」のため、常に将来を見据え時代を先取りした教育体制の構築に尽力しつつ、着実な発展を続けていくための教育研究環境の整備充実に一層の力を注いだ。

2. 大学について

基本方針

大学創立20周年(平成7年)にあたり、学園創立以来の建学の精神と伝統を受け継ぎながら、男女共同参画、生涯学習、国際化社会、障がい者や環境にやさしい社会といった時代と社会の要請に応え、大学の理念を「違いを共に生きる」と定め、この理念を具体的に実現するため「地域に根ざし、世界に開く」「役立つものと変わらないもの」と「たくましさやさしさを」の三つのテーマを掲げ、男女共学体制に移行した。

その後、この理念にそって、学部、研究科の設置、改組を進めるとともに、学生の学びの質を充実するために、常にカリキュラムを検討し、教育研究体制の改善充実に努めてきた。

また、地域社会に貢献し連携をさらに図るため諸機関の附設を行ってきたところである。

平成29年度においても、この基本方針の下に、次のような事業に取り組みを行った。

(1) 総合英語学科の届出申請

国際化が急速に進む現代社会で、これまでの「総合的に英語を教育する学科」のポリシーを引き継ぐ一方、社会のニーズに応え、高度で実践的な英語運用能力と鋭い国際感覚を備え、多様な国際社会に通用する職業人を育成することをめざし、総合英語学科の届出申請を行い、平成29年9月25日に届出受理された。これに伴い、文学部英文学科(入学定員100名)は平成30年4月に学生募集を停止する。

1	設置する学科	文学部	総合英語学科
2	設置時期	平成30年4月1日	
3	定員	入学定員 100名	収容定員 400名

(2) ビジネス学部の再編

ビジネス学部ビジネス学科のもとに、現代ビジネス専攻とグローバルビジネス専攻を置く。現在のビジネスイノベーション専攻とビジネスアカウンティング専攻が合併して、現代ビジネス専攻となる。グローバルビジネス専攻は現状のまま移行する。

1	入学定員	学科全体230人(現行通り)	
	現代ビジネス専攻	170人	
	グローバルビジネス専攻	60人	

(3) 教育研究体制の充実

教育研究体制の充実のため、情報教育センターのパソコンリプレイス等、PublicNaviハードウェアリプレイス、防災対策の強化、「国際教育充実」に係る交通広告、独立型屋外喫煙所の設置、日進市土地の購入、遊休地フェンス囲い工事、10号棟ウッドデッキ改修工事、11号棟パソコンリプレイス及びプレゼンテーションシステムリニューアル、上空通路目隠しパネルの設置、12号棟家具什器等の追加購入、屋内温水プール各種点検、総合英語学科届出申請に係る調査、障がい学生支援のための改修工事、1号館中央監視室警報監視盤更新工事及び学生部長室の設置、2号館講堂天井耐震改修工事及び関連工事、PCB（ポリ塩化ビフェニル）含有物の廃棄、クリニックのレントゲン用カセット購入及び眼科ファイリングシステムの保守、淑友館の補修工事等を行った。

(4) 第2号基本金の組入れについて

現状、長久手キャンパス1号棟及び2号棟は1975年（昭和50年）竣工の築41年、3号棟は1976年（昭和51年）竣工の築40年が経過している。文部科学省の指針による鉄筋コンクリート造校舎の改築までの年数は概ね40年程度とされており、建物の耐久性を高めるとともに、昨今の私学情勢を鑑み、建替えるための10年の資金計画を行った。

3. 中学校・高等学校について

中高6年一貫教育が、中高の接続によって生み出された余裕によって、より深く体系的な教育の実現を目指しているのと同様に、ICT教育に求められるものも、処理できる情報量の多さや、その操作技術の習得だけに止まるべきものではなく、情報収集や整理をICT技術に任せることにより、コンピュータでは扱えない創造的な教育を可能にすることである。AIの導入などによって、現存する職業の半分以上が消滅するだろうと言われる時代に必要とされるのは、技術の高度化のみに止まらず、人間本来の豊かな未来と可能性を手繰り寄せる教育だと考えられる。

平成29年度は校内LANネットワーク機器の更新と、西棟エリアの教室への無線LANの整備を行い、整ったネットワーク環境下での多様な授業が可能になった。また、記念会堂屋内プールの通路、階段、更衣室は、建設以来30年以上が経過し、床、壁面、ドア等の劣化に対処するための塗装、建物補修を行い、併せて、湿気カビ防止のための通気・換気設備を更新した。また、経年劣化による汚れ、脱色、破損等が目立った風除室、エントランスホール、ギャラリー等の壁及び床の塗装・張替え工事を行い、快適な利用環境を整えることができた。